

登録有形文化財 赤レンガ館

■歴史

「赤レンガ館」は、明治42年(1909)4月、歩兵第四十九連隊(通称甲府連隊)の糧秣庫(食料庫)として使用が開始されました。

第二次大戦後、昭和24年(1949)12月に第四十九連隊跡地は山梨大学学芸部附属小学校・中学校用地となり、他の建物が取り壊されたのちも本建物は附属中学校舎の一部として使用されてきました。

平成10年(1998)、大雪のため建物の一部が破損したのを契機に保存の機運が高まり、耐震工事を施したうえ、平成14年(2002)、当時の面影を残したまま改修されました。

■特徴

明治41年(1908)頃建設された、間口5間・奥行20間・面積100坪の煉瓦造り平屋建て建築です。

外壁は、当時としては珍しい「オランダ積み」の組み構造で、甲州煉瓦製造の赤煉瓦を用いています。

そのほか、アーチ式の戸口・窓、木軸組トラス構造と日本瓦葺きの屋根を特徴とする、明治期の洋風建築で山梨県内に現存する最大規模の煉瓦建造物です。



【問い合わせ先】

山梨大学総務部総務課総務グループ

TEL : 055-220-8004

FAX : 055-220-8799

E-mail : soumuk@yamanashi.ac.jp

大学HP : <https://www.yamanashi.ac.jp/>

登録有形文化財

登録年月日:2006年10月18日



山梨大学教育学部に関わる資料を多数展示しています。18世紀末の甲府学問所から現在に至るまでの、施設・設備の図や写真、実際に使用された器具・用具、当時を物語る様々な文書、書籍が収められています。



①江戸期から明治初期にいたる資料

■「杭有売者法帖」乙骨耐軒書

「杭有売者法帖」は、劉文成の「誠意伯劉文成公文集」巻七に書かれている「賣柑信者」を収めています。劉文成（リュウブンテイ=諱は基、字は伯温1311～1375）は明の政治家・詩人・学者で、明の太祖を補佐し、詩文であるとともに明初の大家でもありました。乙骨耐軒の書になります。

①明治期の管理文書

■明治33年度（1900年度）

山梨県師範学校男子炊事部「金銭出納帳」

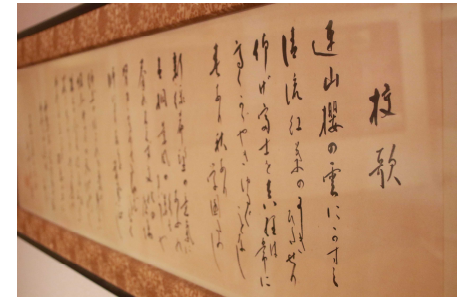
② ■師範学校時代より使用されていた学生用机

右手側面に師範学校の焼き印があります。多くが廃棄された中、奇跡的に残ったもので、1960年代まで使用されていました。



■コミュニティホール

山梨大学が関係する、各種展示会やイベントを行います。間口約8メートル、奥行約20メートルあります。

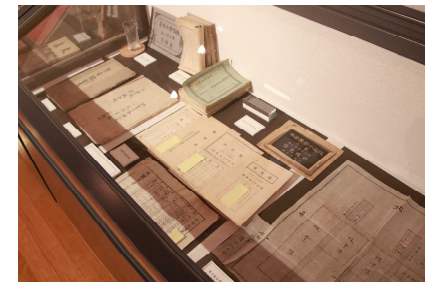


③ ■「附属中学校校歌額 われらの道はここにあり」 土岐善麿作ならびに書

【昭和27年（1952）】

土岐善麿

（とき・ぜんまる=明治18年（1885）～昭和55年（1980）歌人・国文学者）
 中学時代より作歌を始め、明治43年（1910）にローマ字歌集『NAKIWARAI』を出版、初めて短歌三行書きを実行し、石川啄木と並び称されました。また、大杉栄や荒畑寒村ら社会主義者と友好をもち、社会主義文学・労働文学とも深い関わりがありました。
 戦中は自由主義思想派歌人として時局抵抗歌を発表し、戦後は広範に文化活動をし、東京学芸大学附属高等学校、名古屋大学教育学部附属中高等学校など多くの高等学校、中学校、小学校の校歌も作詞されました。



④戦時下の困難な時代の資料

■戦時中の「教育実習録」 【昭和19年（1944）】

B29による東京空襲なども始まり、すでに敗色覆いがたい昭和19年（1944）の教育実習は文部省の規程では12週間にわたって行うことになっていましたが、勤労動員

などによる授業もほとんど開かれず、この年の教育実習はわずか10日間でした。実習開始にあたっての師範学校長の訓辞も、「怡も神風特攻隊が少数の飛行機を以って物量を誇る敵に突入し必死必殺の猛攻を以って一機一艦を屠ってゐるのである様に、諸君もこの特攻隊と同じ心境で敢闘し大いなる戦果を収めて欲しい」と悲壮であると同時に、締めくくりの言葉は「総べてが戦力増強の為になる様にやって貰ひ度い」と全てを戦力増強へと収斂させようとするものでした。

実習録には、上空へ侵入したアメリカ軍機に対して、「まもなく児童下校と云ふ時、敵の一編隊九機が頭上に悠々と飛んでおる。しゃくにさわった」と怒りを露わにしつつも「敵ともあなどるべからず。優秀なる技術と、膽力を持っておると認め得る」と冷静な観察も忘れていない様子が残されています。



⑤各時代の通信簿

■明治期から昭和期に至る通知簿

